

まちの未来のために ごみの行方を考える

私たちの暮らしを支える清掃センターでは、毎日たくさんのごみが処理されています。便利な生活の裏側で、老朽化が進んだ焼却場は修繕に多くの費用がかかるなど、厳しい状況が続いています。これからも安全に稼働を続けるためには、ごみを減らし、正しい分別に取り組むことが欠かせません。

しかし、正しく捨てようとしても、気付かないうちに間違った分別をしてしまうこともあります。捨て方を間違えると、事故や資源のむだになるものも。暮らしの中で変化とともにごみの捨て方も多様化している今、一度ごみの分別方法を見直してみませんか。

今回の特集では、ごみ処理施設の現状と、簡単にできるごみ捨ての工夫をご紹介します。

清掃センター
☎ 22-2734 FAX 24-7787



1977年完成 焼却場

「燃やすごみ」の袋に入れられたごみを焼却する施設で、遠くからでも見える大きな煙突が特徴です。完成から48年が経過した焼却場は、なんと西日本最古。老朽化した施設を安定して動かし続けるために、設備の更新や修繕に大きな費用がかかっており、日々の負担を軽くすることが、施設の延命や処理費用の削減につながります。



▼ピットのごみをクレーンで混ぜながら焼却炉へ運びます。

- OK** 正しい燃やすごみ ※一例です
生ごみ、木・草類、ゴム・革、布、スポンジ、汚れの残った容器包装プラスチック
- NG** よく間違っているごみ
きれいな容器包装プラスチック、ペットボトル、硬いプラスチック（埋立ごみ）

こんなことが、起こっています

プラスチックが混ざっていると…

焼却炉の劣化が進む

焼却炉の温度がどんどん上昇して炉を痛め、長く使えなくなります。

金属が混ざっていると…

焼却をストップ!

燃えないものは焼却の邪魔になるため、場合によっては停止して取り除かなければなりません。再稼働には大きなエネルギーが必要になります。

2003年完成

容器包装プラスチック資源化施設 (民設・民営施設)

容器包装プラスチックのごみ袋に入れて捨てられた、プラスチック製の容器や包装は、資源としてリサイクル業者が回収してくれます。ただし、汚れているものやリサイクルができない物は回収されないため、容器包装プラスチック資源化施設では、間違っただごみを一つ一つ、人の手で取り除いています。



混ぜたらごみ
分けたら資源

- OK** 正しい容器包装プラスチックごみ ※一例です
プラマーク (右図) のついているもの、お菓子の袋、カップ麺の容器、卵のパック、スーパーやコンビニのレジ袋、シャンプーのボトル、食品を包んでいたラップ、発泡スチロール、ペットボトルのキャップ・ラベル
- NG** よく間違っているごみ
ペットボトル (キャップ・ラベルはOK) おもちゃ・CD・硬いプラスチック (埋立ごみ)

迷うことの多い容器包装プラスチック。次のページで、豆知識をご紹介します!



電池は絶対に混ぜないで!

全国的にリチウムイオン電池が原因の火災が多発しており、令和5年度の発生件数はなんと8,543件。彦根市でも一般ごみに混ざっていることがありました。火災が起きれば、ごみの受け入れが止まるのはもちろん、人身事故も起こりかねません。電池は次のとおり分別して出してください。

清掃センターから
お願い



3月2日(月)
市役所でも回収開始!

使用済の乾電池は埋立ごみの日に

月に1度ある、各地域のごみの集積所での埋立ごみの収集日には、使用済の乾電池(マンガン電池・アルカリ電池)を回収しています。埋立ごみとは別に、透明の袋に入れて出してください。

小型充電式電池は直接持ち込む

回収場所

- ・清掃センター
- ・市役所本庁舎(2階:生活環境課)

回収できる充電電池

- ニカド電池
- ニッケル水素電池
- リチウムイオン電池 (モバイルバッテリーなど。膨らんでもOKです。)

※鉛蓄電池、自動車・バイクなどのバッテリーは対象外です。

他にもさまざまなごみの種類があります。分別に迷ったら、彦根市ホームページをご覧ください。

